

森林やまがた

No.164

2016.7



山形県森林協会は、「美しい森林づくり推進国民運動」を推進しています。



目次

「やまがた森の感謝祭2016」を開催しました…2	
やまがた森の感謝祭2016で海づくり大会	
100日前記念放流 …………… 3	
平成28年度山形県森林・林業功労者について…4	
荒廃森林緊急整備事業について…………… 5	
平成28年度森林整備事業（国庫補助事業）の概要について…………… 6	
やまがた森林ノミクスの推進に関する覚書…………… 7	
みどりのページ	
平成28年度緑の募金街頭キャンペーンを行いました…………… 8	
平成28年度緑化推進事業助成金の交付決定について…………… 9	

農林大学校林業経営学科から……………10	
普及情報	
林業普及指導員新任者研修を行いました……………11	
森の人紹介	
半田 泉さん・小方瑞樹さん……………12	
平成28年度第1回やまがた緑県民会議開催……………13	
水資源保全地域の指定について……………14	
村山管内の木造公共施設の整備について……………15	
森林整備加速化・林業再生事業を活用した	
県産木材利用促進の取組み（株）天童木工……………16	
「大江町山菜フェア・町内フォーラム」開催……………16	
舟形町鮎中間育成施設の内装木質化……………17	
「太陽光発電木製架台開発完了・製品化へ」……………17	
丸太価格・製材品価格の推移……………18	

（表紙写真は、5月17日に開催した平成28年度山形県森林協会通常総会の状況）

「やまがた森の感謝祭2016」を開催しました

山形県では、六月の第一土曜日を「やまがた森の日」と定め「やまがた森の感謝祭」を開催しています。

今年度は、六月四日に遊佐町の「遊里・西浜キャンプ場周辺町有林」のクロマツ林内で「森と海 つないで守ろう 未来まで」を開催テーマに、また、九月十日・十一日に酒田市・鶴岡市で開催される「第三十六回全国豊かな海づくり大会」の一〇〇日前記念イベントにも位置付け開催しました。

快晴に恵まれ始まったオープニングアトラクションでは、地元遊佐町の園児による元気な歌声の合唱と、県立遊佐高等学校ソーラン部の演舞「龍信湊乱」が会場に響き渡りました。

式典では、主催者を代表して吉村知事が「この感謝祭を契機に、森を守り、育て、暮らしに活かしながら、次の世代につなげる『森づくりの活動』の輪が大きく広がることを祈念します」と挨拶しました。

森林・林業功労者の表彰では、木材・林産の振興に貢献された、南陽市の(株)沖田木材産業 代表取締役沖田純夫氏、酒田市の(有)遠田林産 代

表取締役会長 遠田勝一氏に、知事感謝状が贈られました。

また、山形県CO₂森林吸収量認証制度による「森づくり認証」では、二十八企業・団体が認証され、代表して日本たばこ産業(株)東北支社と一般財団法人田川建設会館に認証書が授与されました。



遊佐町緑の少年団に託されたリレー旗

森づくりリレー旗の交付は、吉村知事から遊佐町緑の少年団に手渡され、今年度の森づくりリレーがスタートしました。

森、川、海をつなぐ生命のリレーでは、西荒瀬保育園児が自分たちで育てたどんぐりの苗木を吉村知事に手渡しました。吉村知事からは、酒



会場全員で「森づくり・海づくり宣言」

田海洋少年団と遊佐町緑の少年団に記念放流で放流するサクラマスの幼魚が手渡されました。

式典の最後には吉村知事と「西荒瀬保育園」、「遊佐町緑の少年団」、「酒田海洋少年団」の子供たちや森林ボランティアリーダーと一緒に、「豊かな森は、豊かな海をつくり出す。県民みんなで支える森づくりの輪を広げながら『やまがた森林ノミクス』を推進し、豊かな海づくりへとつなげていきましょう」と「森づくり・海づくり宣言」を力強く行いました。

記念植樹では、西荒瀬保育園児と吉村知事が「コナラ」を、主催者や来賓、受賞者、遊佐町緑の少年団、酒田海洋少年団が、山形トヨペット



吉村知事と西荒瀬保育園児、遊佐町緑の少年団で記念植樹

(株)から寄贈を受けた「ソメイヨシノ」を植樹しました。記念放流では、サクラマスの幼魚の放流を行いました。

また、森のホームステイでは、ご家庭などで竹ポットで育てたどんぐりの苗木を森に植栽する取組みを、今回の感謝祭を皮切りに行うこととしています。感謝祭では、カシワの竹ポット苗木を百五十六鉢植栽しました。そのほか会場内では、展示・体験・販売コーナーや森づくり活動など、森を身近に親しみ、楽しみ、体験する催しが行われました。

天候に恵まれた今年の感謝祭は、約千二百人の方々から参加いただき、遊佐町有林のクロマツ林の中で楽しい一日を過ごしていました。

〔県みどり自然課〕

「森と海 つないで守ろう」 未来まで「 やまがた森の感謝祭」100日記念放流

◆第三十六回全国豊かな海づくり

大会「やまがた」について

全国豊かな海づくり大会は、魚食
国である日本人の食卓に安全で美味
しい水産食料を届けるため、水産資
源の保護・管理と海や河川・湖沼の
環境保全の大切さを広く国民に訴え
るとともに、つくり育てる漁業の推
進を通して、わが国の漁業の振興と
発展を図ることを目的として、昭和
五十六年に第一回大会が大分県で開
催されて以来、毎年都道府県ごとに
各地で開催されています。

山形県大会では「森と川から 海
へとつなぐ 生命（いのち）のリレ
ー」をテーマとして掲げ、
一、水産業と地域の活性化
二、豊かな自然環境の保全
三、山形らしさのアピール
四、東日本大震災からの東北復興ア
ピール

を基本方針として、山形県の特徴あ
る水産業や魅力を全国に発信し、水
産業の振興と地域の活性化を図ると
ともに、森と川から豊かな海づくり
につながる取組みを推進します。

山形県大会は、今年九月十日（土）、

十一日（日）に、酒田市民会館「希
望ホール」で式典行事が、鼠ヶ関港
（鶴岡市）で海上歓迎・放流行事が

開催されるほか、酒田市、鶴岡市、
遊佐町で関連行事が開催されます。
関連行事では、ステージイベント
や記念放流、水産物等の物品販売を
行う予定となっております。

ぜひ、関連行事会場へ、皆さん足
をお運びください。



大会キャラクター「もっけだのん」

◆豊かな森と川から豊かな海につな がる取組み

六月四日（土）に開催された森の
感謝祭で、全国豊かな海づくり大会
の本県開催を記念し、会場の東側を
流れる日光川への100日前記念放

流を実施しました。

ここでは、吉村知事をはじめ主催
者、来賓の方々が、西荒瀬保育園児、
酒田海洋少年団・遊佐町緑の少年団
の子供たちと、県の魚「サクラマ
ス」の幼魚約千尾を放流し、その後、
一般参加の皆さんが放流を行いました。



西荒瀬保育園、緑の少年団等による幼魚の放流



知事から海洋少年団へのサクラマス幼魚の手渡し

子供たちの放流では、バケツの中
で元気に飛び跳ねる「サクラマス」
の幼魚に驚きの表情を見せる子や、
「元気でねえ」と声を掛けながら手
を振り、名残惜しそうにしている子
など、様々な表情が見られました。



放流会場で鳥海山をバックに記念写真

大会開催まであと残り僅かとなり
ました。大会の成功に向け、漁業関
係者のみならず、林業関係の皆様
の御理解・御協力をお願いいたします。
〔庄内総合支庁全国

豊かな海づくり大会推進課〕

山形県森林・林業功労者について

はじめに

六月四日(土)に遊楽里・西浜キヤンプ場周辺町有地(遊佐町)で開催された「やまがた森の感謝祭2016」において、吉村美栄子知事から今年度の森林・林業功労者に感謝状が贈呈されました。

がた森の感謝祭2016

森と海 つないで守ろう 未来まで～



山形県森林・林業功労者感謝状の贈呈式

山形県森林・林業功労者については、毎年、森林・林業の振興及び緑

化推進等に顕著な功績があった個人や団体を対象に

- 一 「森林づくり」部門
 - 二 「森林保護保全」部門
 - 三 「山村・林業の振興」部門
 - 四 「木材・林産の振興」部門
 - 五 「緑化の推進」部門
 - 六 「県民参加の森づくり」部門
- の六部門の中から、選出し表彰しているものです。
- 今年度は、「木材・林産の振興」部門の二個人が選出されましたので、その功績について紹介します。

◆「木材・林産の振興」部門

沖田 純夫氏

〈南陽市二色根〉

株式会社沖田木材産業の代表取締役の沖田氏は、家業の製材業に就業して以来、木材産業に四十五年の長きに渡り携わられており、その間、県の木材産業協同組合の理事長や全国木材協同組合連合会の副理事長を務めるなど全国及び本県の木材産業の振興に大いに貢献されました。

また、全国初の大型木造耐火文化施設の南陽市文化会館の建設に際しては、材料の調達や納入に関する調整役として、地域材の有効活用に大いに尽力されました。

と海 つないで守ろう 未来まで～



知事から感謝状を授与される沖田氏

◆「木材・林産の振興」部門

遠田 勝一氏

〈酒田市上青沢〉

有限会社遠田林産の代表取締役会長の遠田氏は、家業の製炭業に就業し、昭和四十一年から素材生産を始めて以来、五十一年の長きに渡り林産業に携わられてきました。経営する会社では、地域の方々への雇用を積

極的に行うとともに、高性能林業機械の導入や高密度作業路網の整備を図るなど、効率的な木材生産に努め、他の林業事業体の模範となつていきます。

また、人材育成の面では、緑の雇用の受け入れや高性能林業機械研修の指導をするなど、後進の指導・育成にも積極的であります。

と海 つないで守ろう 未来まで～



知事から感謝状を授与される遠田氏

◆おわりに

このたび受賞された方々のこれまでの森林・林業等への功績を称えるとともに、今後の益々のご活躍を心よりご期待申し上げます。

〔県林業振興課〕

やまがた緑環境税事業 荒廃森林緊急整備事業について

県では、平成十九年度から「やまがた緑環境税」を活用し、県民生活に大きな影響を及ぼす恐れのある、管理放棄され荒廃が懸念される森林を『荒廃森林緊急整備事業』として整備しており、今年で十年目をむかえます。このたび、平成二十七年度の事業実績がまとまりましたので、平成二十八年度の事業計画とあわせて紹介します。

◆森林整備事業の内容

森林整備事業としては、下段参照のとおり『針広混交林整備』、『長期育成林整備』、『里山林整備』の三タイプを実施しています。

針広混交林整備及び長期育成林整備では、長期間施業が行われていない人工林に対して、主に間伐を実施しています。また、里山林整備では、病害虫被害跡地の二次被害対策（伐採）のほか、幹線道路沿いなどの景觀が悪化している森林の解消や、人と動物の共存に向けた緩衝林帯の整備を実施しています。

◆平成二十七年度整備面積と進捗状況
 平成二十七年度は、一、三三二杉

の荒廃森林を整備し、全体計画に対する進捗率は九十二%となっています。

平成27年度荒廃森林緊急整備事業実績面積

区分	事業主体	面積(ha)
針広混交林整備	県	87.1
	森林組合	327.7
	小計	397.0
長期育成林整備	県	724.7
	市町村	450.4
	小計	69.3
里山林整備	県	519.7
	市町村	69.3
	小計	519.7
計		1,331.5

進捗率

全体計画(ha)	H19~H27整備面積(ha)	進捗率(%)
11,600	10,638	92%

◆平成二十八年度整備計画面積

平成二十八年度は、一、四〇〇杉の荒廃森林を整備する計画です。全体計画に対する進捗率は一〇一%となり、目標を達成できる見込みです。今年度は全体計画の最終年度であり、制度の見直しも行うことになっています。

今後とも、「やまがた緑環境税」を財源とした森林の整備について周知を図り、着実に進めてまいりますので、皆様の御理解と御協力をお願いします。

〔県林業振興課〕

荒廃森林緊急整備事業 (H28事業費 713,786千円 内やまがた緑環境税 481,872千円)

■水源かん養など公益的機能の高い森林を育成（針広混交林整備）

事業費 20ha 7,207千円

(緑環境税 5,511千円、国庫補助金 1,696千円)

スギ人工林に広葉樹を導入するための強度の間伐及びこれに必要な森林作業道の設置

平成24年度から新たに追加された体系



水源かん養機能や土砂流出防止機能の維持増進のための針広混交林の整備

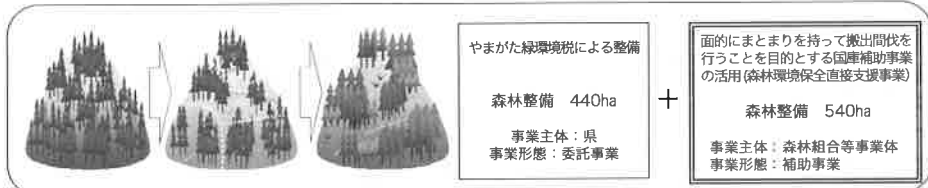


■スギ人工林の再生を起点とした環境に配慮した森林経営の展開（長期育成林整備）

事業費 980ha 497,657千円

(緑環境税 267,439千円、国庫補助金等 230,218千円)

間伐及びこれに必要な森林作業道の設置など、森林組合等が森林所有者に代わって施業を一元管理し、森林の公益的機能を持続的に発揮する仕組みを構築



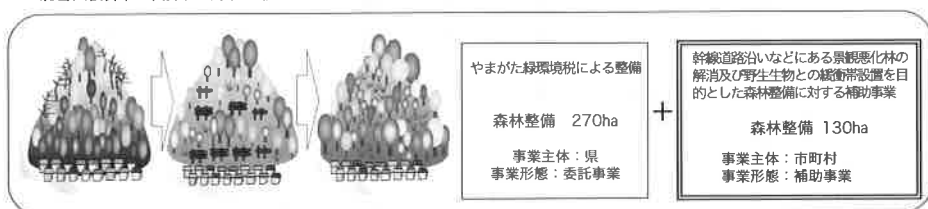
間伐と作業道設置の推進による、健全な森林経営の推進



■病害虫などで活力が低下した里山林の再生（里山林整備）

事業費 400ha 208,922千円 (緑環境税 208,922千円)

病害虫被害木の伐採、広葉樹の植栽、簡易土留柵の設置など



病害虫などで活力が低下した里山林の整備や森林景観の整備と、人と動物との共存林の整備の推進



平成二十八年 度森林整備関係事業 (国庫補助事業)の概要について

はじめに

近年、県内各地に木質バイオマス発電施設や、大型木材加工施設の建設が進んでおり、今後、木材需要の大幅な増加が見込まれます。

このような中、間伐や再造林を中心とした森林整備を推進するため、県では森林施業支援事業や合板・製材生産性強化対策事業などの国庫補助事業に取組んでおります。

そこで、平成二十八年度の森林整備関係事業(国庫補助事業)の概要についてお知らせします。

◆予算の状況

森林施業支援事業の県予算額は、対前年度比一・一倍の七億五千万円を確保しております。また、国の補正予算に伴い措置された合板・製材生産性強化対策事業については二億五千万円となっております。

①花粉発生源対策促進事業について

森林施業支援事業のメニューの一つとして、平成二十八年度から新たに実施する花粉発生源対策促進事業は、花粉の少ない森林への転換を目的として、花粉発生源となっている

スギ及びヒノキ人工林を伐採し、花粉症対策苗木等への植替えを支援する事業です。

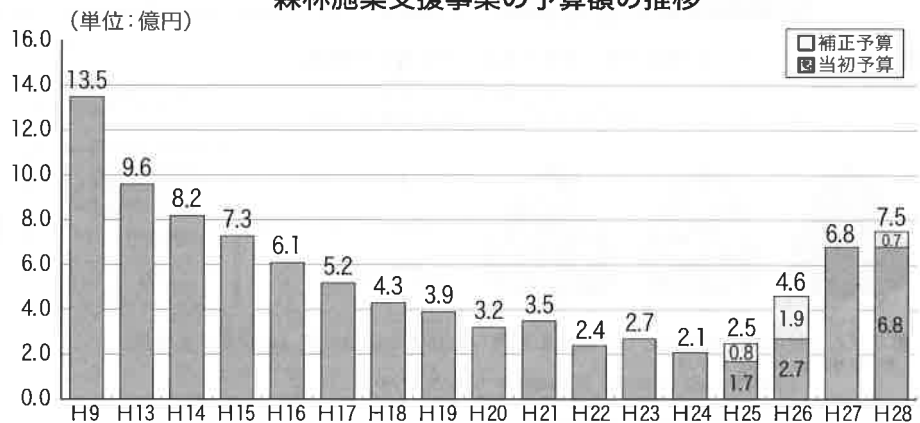
事業要件としては、一施行地(〇・一ha以上)において、同一の事業主体が伐採から植栽まで一貫して作業を実施し、植栽する苗木が花粉症対策苗木(少花粉・無花粉)等であり、かつコンテナ苗であることが条件となっております。

②森林資源再生事業の補助率の見直しについて

主伐後の再造林については、次期の主伐時に収益が見込めないことや植栽経費の負担が大きいことから、実施状況が低位で推移しております。

このため平成二十七年 度から再造林の標準経費の一〇%相当額をやまがた緑環境税により補助を行っておりますが、平成二十八年度から補助率をさらに二%上乘せして、標準経費の一・二%相当額を支援することとなりました。補助率の見直しにより、森林施業支援事業と併せて活用した場合、実質補助率は八〇%となります。

森林施業支援事業の予算額の推移



③検査体制の見直しについて

他県において、補助金の不正受給が行われていたことから、再発防止策として全国的に検査体制の見直しが行われました。

具体的には、森林施業支援事業による現地写真については、これまで事業完了後の状況を撮影することと

なっておりますが、今後は、事業実施前・事業実施中についても写真を撮影することとなり、また撮影の際は原則としてGPSデータが記録されるもので撮影することとなりました。その他、県の検査体制も一部見直しを行う予定です。御理解と御協力をよろしくお願い致します。

④合板・製材生産性強化対策事業について

合板・製材生産性強化対策事業のメニューの一つである間伐材生産については、国際的競争力強化に向け、生産性向上を図る合板・製材工場に対して間伐材の安定供給を行うことを目的に実施するものです。事業要件は、一施行地が〇・一ヘクタール以上で、間伐材を指定工場に搬出することが条件となっております。

なお、原則として十二歳級以下の森林が対象となりますが、地域の実情を勘案し必要がある場合は、年齢級によらず補助対象となります。

◆おわりに

県では、今後とも森林整備事業の推進に努め、計画的な間伐の推進や再造林の促進を図ってまいりますので、積極的に取組んで頂くようお願いいたします。

〔県林業振興課〕

やまがた森林ノミクスの推進に関する覚書

— 吉村知事と瀬戸東北森林管理局長が締結 —

◆はじめに

平成二十八年四月十二日、国有林と民有林が連携して森林ノミクスに取組むとして、吉村美栄子山形県知事と瀬戸宣久東北森林管理局長が、「森林ノミクスの推進に関する覚書」を締結しました。

締結式では、知事から「森林ノミクスは地方創生の要ともなる日本全土で展開可能な成長戦略だと考えています。東北森林管理局の御指導・御協力を得ながら森林ノミクスを進められることは、大変力強く感じています。今後、民有林と国有林が密接な関係を深め、やまがた森林ノミクスを一層推進してまいります」とあいさつしました。

瀬戸局長は、「林業の成長産業化は、日本再興戦略においても取組むべき政策の一つです。局としても、この実現に向け民有林関係者と連携を強化し林業・木材産業を通じた地方創生に貢献したいと考えています。覚書を契機に、皆様から御意見、御提言をいただきながら様々な取組みを進めていきたい」と述べられました。



◆覚書の内容

山形県は、県土面積の約七割が森林で覆われた全国有数の「森林県」である。森林は、木材等の供給はもとより、美しい自然景観や観光資源の形成、水源の涵養、山地災害の発生や地球温暖化の防止など、多面的な機能を有しており、県民生活に欠くことのできない重要な役割を果たしている。

この先人が守り育ててきた豊かな森林は、本格的な利用期を迎えており、森林資源を循環利用することが喫緊の課題となっている。

本県では、この豊かな森林資源を「森のエネルギー」、「森の恵み」として林業振興や雇用創出に活かしていく「やまがた森林ノミクス」を推進しているところである。この森林ノミクスを一層加速化させていくためには、民有林と国有林が一体となつて、林業の生産基盤づくりや県産木材の利用拡大、さらには、その担い手となる人材の育成・確保など、強力に取組む必要がある。

このため、山形県と東北森林管理局は、密接な連携のもとに次の事項に取組むこととし、「やまがた森林ノミクスの推進に関する覚書」を締結する。

- 一 路網整備や間伐等の森林整備をはじめ、主伐・再造林などの推進
- 二 県産木材の需要拡大と安定供給の推進
- 三 県立農林大学校を核とした人材の確保・育成の推進
- 四 低コスト作業システムの構築に向けた技術開発及び普及
- 五 地域の林業を起点とする雇用の創出及び地域の活性化

六 その他「やまがた森林ノミクス」に関する施策の推進



◆おわりに

今年の秋には、新庄市に整備中の大型集成材工場が操業を開始するほか、県内各地で木質バイオマス発電施設の整備が計画されており、今後県内の木材需要が大幅に増加する見込みとなっています。このたびの覚書締結を契機に、県と東北森林管理局の連携を一層深め、「やまがた森林ノミクス」の推進に取組んでまいります。

〔県林業振興課〕



みどりのページ

平成二十八年年度緑の募金街頭キャンペーンを行いました

緑の募金強調月間(みどりの月間)(四月十五日〜五月十四日)に合わせて県内各地で緑の募金街頭キャンペーンを開催し、「緑の募金」を広く県民の皆さんに周知するとともに、募金への協力を呼びかけました。

緑の募金街頭キャンペーン出発式

◆期日 平成二十八年四月二十一日
◆場所 文翔館前広場(山形市)

県内各地で行われる街頭キャンペーンの口火を切って文翔館前広場で出発式を行い、永年にわたって緑の募金に功績のあった企業や団体の皆様に感謝状を贈呈しました。

◆平成二十八年年度感謝状贈呈団体
【林野庁長官感謝状】
山形県森林土木建設業協会

【国土緑化推進機構理事長感謝状】
米沢地方森林組合
北庄内森林組合

【山形県みどり推進機構理事長感謝状】
(株)アーレスティ山形、(株)イヨテクニカル、(株)大風印刷、(株)グリーンシステム、(株)庄内測量設計舎、白岩土木建築(株)、(株)丹野、中央公害清掃(株)、日本地下水開発(株)、農林中央金庫山

形支店、ミドリオートレザラー(株)、

明立工業(株)、山形いすゞ自動車(株)、
(一社)山形県測量設計業協会、山形県農業共済組合連合会、(株)山形城南木材市場、山建工業(株)(五十音順)

また、保育園児が育てたどんぐり苗木の贈呈や、園児による緑のメッセージの読み上げの後、ボランティア団体に募金箱やのぼり旗などの募金資材が手渡され、参加者は街頭キャンペーンに出発しました。

◆街頭募金に協力いただいた団体
山形県緑を育てる女性の会
山形グリーンライフ女性の会
東海大学山形高等学校(順不同)
◆募金額 五四、〇〇九円



林野庁長官感謝状の贈呈

最上地域街頭キャンペーン

◆期日 平成二十八年四月二十四日
◆場所 新庄駅前、ヨークベニマル新庄店、マックスバリュ新庄店

新庄市みどりの少年団員と新庄南高校の生徒の協力により、元氣いっぱい募金の呼び掛けを行いました。

◆募金額 四一、七三七円



保育園児が育てた苗木の贈呈



街頭募金の様子(新庄市)

緑の募金にご協力いただいた企業・団体のみなさま (H28. 4. 1~5. 31)

(山形県みどり推進機構取扱い分)

青山建設グループ、(株)阿部林業、(株)アライドテック、(株)荒正、(有)遠田林産、岡崎医療(株)、(株)カキザキ、(株)黒田組、山形県国際交流協会、小林防護工事(株)、(株)斎藤建設、蔵王食品(株)、寒河江ロータリークラブ、佐久間会計事務所、サニーヒル菅沢、JA共済連山形、(株)ダイユー、中山ロータリークラブ、西置賜ふるさと森林組合、日本自動車販売協会連合会山形県支部、(株)沼澤工務店、農林中央金庫山形支店、(株)フィデア総合研究所、(有)フジハラ自動車、(有)舟形マッシュルーム、(株)ホリエ、ミドリオートレザラー(株)、(株)モンテディオ山形、山形ウッドエネルギー、(株)山形環境エンジニアリング、山形県企業振興公社、山形県市長会、山形県社会福祉協議会、山形県商工会連合会、山形県職業能力開発協会、山形県私立学校総連合会、山形県信用保証協会、山形県中小企業団体中央会、山形県土地改良事業団体連合会、山形県林業公社、山形航空電子(株)、山形農業協同組合、(株)山形メタル、山形木造住宅プレカットシステム、(有)山口製材所、(有)渡部製材所、(株)渡会電気土木
(以上、敬称略・五十音順)

ご協力ありがとうございました。



みどりのページ

当法人では、地域のボランティア団体や自治会などが行う植樹活動や環境緑化事業などに対して助成を行っており、平成二十八年度の採択事業が決定しました。今年度の交付団体は下表のとおりです。

〔(公財) 山形県みどり

推進機構〕

**平成二十八年度緑化推進事業
助成金の交付決定について**

◆募金額 四、八八八円

◆期日 平成二十八年五月三日

◆場所 いこいの村庄内(鶴岡市)
庄内チューリップ祭り二〇一六の
会場でブルーベリーの苗木のプレゼ
ントと緑の募金活動を行い、来場者
への緑化の普及啓発を図りました。

庄内地域街頭キャンペーン

◆期日 平成二十八年四月二十三日

◆場所 イオン米沢店、松が岬公園
周辺(米沢市)

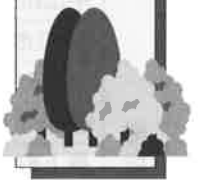
桜の名所やスーパーを会場に、米
沢市緑の少年団員が元気いっぱい
募金の協力呼び掛けました。

◆募金額 三三、六四八円

置賜地域街頭キャンペーン

平成28年度 公益財団法人山形県みどり推進機構 緑化推進事業交付決定一覧表

事業項目	所在地	申請者名	採択額(千円)	事業項目	所在地	申請者名	採択額(千円)
都市・農山村の環境緑化整備事業	山形市	まんさくの丘保護者会	247	都市・農山村の環境緑化維持管理事業	山形市	館山会	71
	山形市	山寺地区振興会	300		山形市	西山形花の会	100
	天童市	立谷川の花さかじいさん	300		山形市	長町第9区町内会	100
	中山町	天盃泉利用組合	299		天童市	上貫津町内会	99
	寒河江市	清助新田振興会	280		天童市	津山の自然を守る会	100
	西川町	西川町梅沢町内会会館運営委員会	120		山辺町	ヒメサユリを植える会	100
	尾花沢市	ニツ森観光開発促進委員会	151		山辺町	大蕨棚田さくら公園設置管理運営委員会	100
	最上町	緑を愛する会	299		中山町	月山櫻遊会	99
	最上町	東法田元気な村づくり協議会	299		中山町	中山ロータリークラブ	100
	米沢市	米沢市倫理法人会社会貢献委員会	300		寒河江市	慈恩寺共有山林組合	100
	米沢市	三沢花いっぱい運動推進協議会	300		西川町	石田町内会	75
	米沢市	NPO法人斜平山保全活用連絡協議会	299		尾花沢市	宮沢翁塾	70
	米沢市	北町共和会	234		金山町	安沢地区	100
	川西町	里山を楽しむ会	300		金山町	有屋地域公民館連絡協議会	100
	小国町	針生自治会	300		金山町	楯山を愛する会	100
	白鷹町	羽黒の森を守る会	299		金山町	三枝地区	100
	飯豊町	上郷地区緑化推進協議会	299		金山町	壮樹会	69
	飯豊町	東山友志会	299		金山町	金山町羽場地区自治会	100
	飯豊町	手ノ子地区協議会	300		金山町	稲沢地区	100
	鶴岡市	鶴岡コミュニティガーデン	300		米沢市	米沢市立第六中学校	100
	鶴岡市	小菅野代自治会	151		米沢市	芳泉町町内会	98
	鶴岡市	温海川自治会	300		米沢市	窪倉豊心会	97
	森林環境 教育事業	山形市	山形県林業士会		100	南陽市	岩部山三十三観音保存会
米沢市		三沢地区学校林整備委員会	100	長井市	長井市舟場地区ふなば花道会	100	
県土緑化の普及啓発 調査研究事業	山形市	山形グリーンライフ女性の会	100	長井市	岡鼠原のみ会	60	
	山形市	山形県緑を育てる女性の会	89	長井市	勸進代区	99	
	酒田市	万里の松原に親しむ会	100	小国町	上大石沢地区会	99	
				鶴岡市	木野俣自治会	100	
			鶴岡市	鶴岡市温海第3地区自治会	100		
			鶴岡市	山五十川自治会	100		
			鶴岡市	花咲く里山温海支部委員会	100		
			鶴岡市	温海温泉自治会	100		



◆はじめに

今年四月に山形県立農林大学校に新設された林業経営学科には、県内外からあわせて十五人の学生が第一期生として入校しました。入校から約二カ月が過ぎて、学生たちは、講義や実習を通して森林・林業について積極的に学んでいます。今回は、講義や実習の様子などについてご紹介します。

◆多岐にわたる学習科目

林業経営学科で学ぶ科目は「造林・育林」、「森林生態」、「森林保護」、「樹木」、「森林計測」、「林業機械」、「林産」、「特用林産」など多岐にわたっています。これら各分野に関する幅広い知識や技術、高い専門性を備えた地域の森林・林業を担うリーダーの育成、また、地域の森林経営をプランニングできる経営力を備えた人材育成がこの学科の目標です。

入校式翌日の四月十五日から始まった授業では、これまで、森林・林業の基礎知識に関する講義、林分調査の基礎実習やチェーンソーの基本操作実習等を実施してきました。学

生の中には、農業高校の出身者もいて、林業に関する知識を少し持った学生もいますが、ほとんどは、森林・林業の科目に接するのは初めてです。毎日出てくるこれまで聞いたこともない専門用語に悪戦苦闘する一方、初めて目にする林業独自の機械・器具類には、興味津々です。学生一人にチェーンソーと刈払い機が一台ずつ配備されていますが、特にチェーンソーの分解、メンテナンス実習では時間を忘れるほど熱心に取組んでいます。六月からは、講義・実習とも、いよいよ各科目の各論に入り、実践的な内容に移行していきます。

◆講義・実習のバランスが大切

森林・林業を学ぶためには、さまざまな分野について理解を深める必要がありますが、実技の習得には、講義においてそのしくみや目的を十分に理解する必要があります。また、講義において知識を深めたとしても、実技を伴わなければ実践的とは言えません。そのため、カリキュラムの設定にあたっては、講義と実習のバランスを大切にしています。これか

ら、林分調査や間伐設計、測量をはじめとする実践的な実習のほか、林業機械に関してはチェーンソーや高性能林業機械の特別教育、小型移動式クレーンや玉掛けなどの技能講習など、資格取得のための教科も出てきますが、二年間という短い授業の中で、「知識×技能＝技術」を基本的に学習を進めていきます。



実習林(林業公社有林)での集合写真

◆寮生活で得られるもの

学生は、他の学科の学生とともに、全員、寮での共同生活を送っています。森林・林業という共通の目的を持って入校した学生は、寮においても森林・林業や就職に関する話題について意見を交わしているようです。また、昆虫に興味がある学生が集ま

って、森林昆虫について自主学習をする様子もみられるなど、寮生活において得られるものは想像以上に大きいと思います。



学校実習林での林分調査

◆森林の時間軸を大切にしたい

二年間の授業で習得できるものには限りがありますが、学生に伝えたいのは、「自然の法則を理解しその法則に従った技術を身につけること」と、「森林の時間軸に基づいて林業を考えること」です。そして、何よりも肝心なのが、「けがや事故なく卒業すること」が学校の最大の目標です。これからも、随時、講義や実習の様子をお知らせいたしますので、皆様からの御指導等をお願いいたします。〔山形県立農林大学校〕

林業普及指導員

新任者研修を行いました

◆はじめに

山形県には各総合支庁に合計十五名の林業普及指導員と森林研究研修センター森林経営指導部に四名の広域林業普及指導員が配置されており、技術指導、後継者育成、試験研究部門との連携・調査等、山形県の林業振興と地域活性化のために日々活動しております。

森林研究研修センターでは、毎年新規に林業普及指導員に任命された職員を対象に、新任者研修を実施しています。これは、林業普及指導員には高い専門性が求められていることから、普及指導員活動に必要な基本的知識を修得することを目的としています。

今年度は五月十二日に三名の新たな普及指導員（村山、最上、庄内、各一名）が研修を受講しました。

◆研修内容

最初に基本的事項として、森林法に定められた林業普及指導員制度の法的根拠の、林野庁長官が五年ごとと定める「林業普及指導運営方針」と知事が五年ごとに定める「林業普

及指導実施方針」、知事が毎年定め、重点課題、普及指導実施方法等を示した「林業普及指導事業実施計画」等の各計画について、そして、普及指導活動の記録方法について研修を行いました。

続いて、市町村森林整備計画等の森林計画制度と、森林経営計画制度の概要について研修を行いました。

平成二十五年度より、林業普及指導員試験に地域森林総合監理区分が新設され、この試験に合格した者は新たに森林総合監理士（フォレスト）として登録されます。

山形県では森林総合監理士として十三名が合格しており、市町村森林整備計画の策定支援を通じて地域の森林づくりの全体像を描き、併せて市町村が行う行政事務の実行支援を行う者とされていることから、林業普及指導員で森林総合監理士にも登録されている職員は市町村森林整備計画の策定において重要な役割を担う事になります。

森林経営計画制度についても、森林整備の推進だけでなく、木材の計

画的な搬出という点においても、重要性が高まっており、集約化施策の推進、低コスト作業システムの構築等における林業普及指導員の役割は非常に重要だと考えられます。

次に、林業普及指導員は野外・現場での普及活動等を行うことが多い事から、野外実習等における安全管理について、事故を未然に防ぐ事を目的とした計画策定や、万が一に事故が発生した場合の対応方法について研修を行いました。

最後に、林木の品種・系統と林木育種について、センターの研究担当から、その土地（産地）にあった品種（系統）の使用の重要性、育種の目的及び方法について、また、県で研究されている抵抗性クロマツの開発、無花粉スギの安定供給に向けた取組み、積雪地におけるコンテナ苗の育苗方法の研究等について研修を行いました。

戦後に植林された森林が成熟しつつありますが、林齢構成が極端に偏っている事から、その平準化が課題となっています。また、大型集成材工場の着工やバイオマス発電所の設置計画による木材需要の増大から、今後、皆伐が進む事が予想されるため、一貫作業システムの導入、下刈

りの省力化といった森林施策においても再造林の推進体制を整えていく必要があると考えられます。

地域資源を活用した林業振興・雇用創出を目指す「やまがた森林ノミクス」において、林業普及指導員の果たす役割は非常に大きいものとなっております。

今後もセンターでは、林業普及指導員を始めとした森林技術職員の技術向上に向けた取組みを行っていきたいと思います。



研修状況

〔森林研究研修センター〕

森の人紹介

「宝の山づくり」請負人

山形地方森林組合

半田 泉さん



森林施業プランナーの半田さんを紹介いたします。

半田さんは

山形市生まれの山形市育ち、森林組合に勤務して今年で十八年目になります。前職は歯科技工士という異色の経歴の持ち主です。若いころからとにかくアウトドアが大好きで、休日ともなれば、夏は釣りにゴルフに乗馬、冬はスキー、スノーボードと、家に居る日はほとんどなかったそうです。「アウトドアで仕事がしたい」という想いが日に日に強まり、ついに森林組合の職員募集に応募。そんな半田さんなので、森林組合に就職して、植林、下刈、除間伐等の現場作業を先輩から叩き込まれた時も、体力的にはさほど苦にならなかったそうです。

二年前からは、間伐の素材生産に取組んでいます。これまで山形市の民有林で八団地の施業集約化を実現

し、すべての森林所有者に利益還元してきました。「境界が現地確認できたうえに、間伐が遅れて荒れていた山がきれいになった」と森林所有者からの喜びの声に、半田さんは素直にうれしいと話します。

「多くの森林所有者を相手に行っているの、一人ひとりの所有者とはある程度距離を保たないと……と分かってはいるんですが、ついつい相手の懐まで入ってしまうんですよ」と苦笑いしながら「もちろん苦労もあります。まったく山に関心のない人や、山は負の財産と考えている人を説得するわけですから。また、林地の境界を間違ってしまう、所有者に謝りに通ったことも……」

それでも「間伐計画や作業道のルートなど、山のデザインを考え、森林所有者とそのイメージ共有しながら、現場で実行していくのはとてもやりがいがある。後輩には、そういうやりがいも、苦労も、自分の経験をすべて伝えていきたい。今後は山辺町や上市市など、管内の近隣市町にも施業の集約団地を拡げていきたい」と話す半田さん、「宝の山づくり」請負人の活躍は益々拡がっていきそうです。

〔村山総合支庁森林整備課〕

森の人紹介

自伐・農家林家

川西町

小方 瑞樹さん



川西町大舟で農家林家を営む小方瑞樹さんは四haの水田と九十ha

の山林を所有し、春から秋は田んぼ仕事、秋から春は自宅を取囲む所有山林で働いています。

スギ、アカマツ以外の七十haが広葉樹で、毎年一定量を皆伐、ホダ木用途などで出荷し、春先に道端に並べられる原木はこの地域の春の風物詩になっています。

区割りは画的に決めているのではなく成長を見ながら収穫適期に伐採、周期は斜面方向などによって成長量が違うのでおよそ三十五年から長くても四十年だそうです。

特に萌芽整理や枝打ちなどの保育作業は行っていないとの事ですが、伐採の少し前に林床を刈払い、十月下旬から根雪になるまでの間に伐採、九十cmに玉切りして山に置きます。

正月明けから雪を利用し道を作り林内作業車で搬出します。ホダ木に

適したものは、十二cmから太くても二十五cm程度なため、集材はすべて手作業、人力で行います。

運搬車は古い機種なので部品交換や修理に時間と経費がかかることが悩みだそうです。枝の部分も集材し自宅の薪ボイラーで利用し、暖房や風呂に化石燃料を一切使っていないそうです。

父親の新右エ門さんを手伝うようになってから三十年以上毎年この作業を繰返し、今年伐る場所は瑞樹さんが伐り覚えのある山だそうで少なくとも二順目の伐採となります。

ホダ木用途は、単価はいいものの泥や傷をつけないよう丁寧に扱う必要があり「こんな手間のかかることをしているのはうちくらい。絶滅危惧種だよ」と言って瑞樹さんは笑います。

小方さんの林業経営は、持続的循環利用を旨とする樹資源活用の一の理想形であり、置賜総合支庁が取り組む広葉樹活用推進のヒントになると考えています。



今年伐採予定(左奥)・昨年伐採(右)

〔置賜総合支庁森林整備課〕

平成二十八年第一回やまがた緑県民会議開催

◆はじめに

やまがた緑環境税を活用した事業の評価と検証を行う「やまがた緑県民会議」の今年度第一回会議を六月二日（木）、山形市の山形県自治会館で開催しました。

◆新委員の委嘱と議長選出について

三月に委員二名の欠員があり、新たに委員二名を委嘱しました。

新委員・川合要一（南陽市）、林雅秀（鶴岡市）（任期は平成三十年三月まで・敬称略・五十音順）

議長には、委員の互選により後藤完司氏が就任しました。

◆二十七年事業実績及び二十八年度事業計画等について

平成二十七年度やまがた緑環境税活用事業の実績及び平成二十八年年度やまがた緑環境税活用事業計画について報告を行いました。

二十七年実績総額は六億三千三百万円（緑環境税分）。荒廃森林緊急整備事業については計画どおり千三百三十二haを整備。NPOなどを支援する公募事業は百十四事業、市町村交付金事業では百六十六事業に対し助成しました。県民参加の森林

づくり人数は九万八千六百八十八人となり、目標九万八千人を上回りました。

また、二十八年事業の総額は七億千三百万円（緑環境税分）。主伐後の再造林を行う仕組みの構築を図る「森林資源再生事業」を実施するほか、森林資源を森の恵み、森のエネルギーとして暮らしに活かす県民活動を支援する「みどりの循環県民活動推進事業」等を実施します。



第1回やまがた緑県民会議の様相

オマス資源の需要拡大に対する対応等について御意見をいただきました。

また、県民参加の森づくりの推進を中心としたソフト事業については、森づくり活動参加者数一〇万人達成後の今後の目標や、森づくり団体の固定化、高齢者を対象とした森林散策、野生動物との共存、認知度の向上について御意見をいただきました。

特に、認知度の向上については、緑環境税活用事業を活用した広報手法や、普及啓発物品の配布など様々な手法について御提案いただきました。



議長 後藤

◆やまがた緑環境税制度の評価・検証について（中間とりまとめ）（案）

昨年度来、緑環境税を活用した事業の成果や課題を整理するとともに、各種アンケート調査や意見交換会を実施し、県民の皆様や「やまがた緑県民会議」からの御意見等を踏まえながら実施してきた、やまがた緑環境税の評価・検証に関する中間とりまとめ（案）がまとまり、その内容について御協議いただきました。

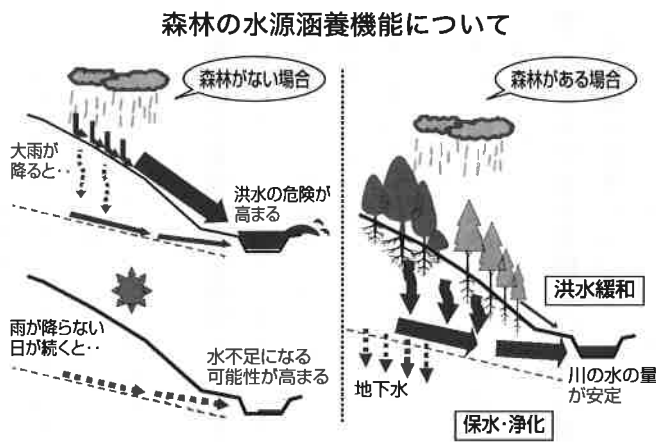
荒廃の恐れのある森林の整備を中心としたハード事業については、森林整備実施時に所有者と県が締結する協定や再造林後の保育、木質バイ

◆おわりに
 県では、今後もやまがた緑県民会議においてふるさとの森林を守る緑環境税事業の効果について御意見、御提言をいただき、県民の皆さんに緑環境税事業の理解を深めていただくよう各種施策を展開していきます。
 「県みどり自然課」

水資源保全地域の指定について

◆森林の大切な機能

山形県の面積の約七十二％を占める森林には、水の「浄化」や、雨水を土にしみこませることで、大雨による「洪水」や日照りによる「水不足」の危険を少なくするなどの「水源涵養機能」があります。



しかし、近年、水資源に影響を及ぼすおそれのある、森林などの土地の売買や開発行為が全国的に問題となつていきます。

◆水資源保全地域の指定

本県の豊かな水資源と森林を守るため、県は、平成二十五年三月に「水資源保全条例」を定め、条例に基づき、県内の民有林等の区域を水資源保全地域に指定しています。(平成二十八年六月末現在、四市八町の十七地域を指定)

■水資源保全地域指定状況(平成28年6月末現在)

村山地域	西川町
	大江町
最上地域	最上町(最上小国川地区)
	舟形町(最上小国川地区、堀内地区)
置賜地域	米沢市(大荒沢水源地、鬼面川貯水池)
	長井市(野川地区)
	南陽市(小滝地区)
	川西町(犬川地区、黒川地区)
庄内地域	飯豊町
	鶴岡市
	庄内町(立谷沢川地区)
	遊佐町(牛渡・滝瀧・洗沢地区、下当山・長坂地区、白井地区、八森・藤井地区)

指定地域の図面は、県庁環境企画課、各総合支庁環境課、関係市役所、町役場で閲覧できるほか、県ホームページでも公開しています。

◆事前届出制度について

水資源保全地域内で土地取引等や開発行為を行うとする場合は、県(総合支庁環境課)に、次のとおり、事前に届出を行う必要があります。

1 土地取引等に係る届出

- (1) 届出の対象：土地売買、土地への権利設定(賃借権、地上権等)
 - (2) 届出義務者：現在の土地所有者(土地売買の売主等)
 - (3) 届出の時期：契約締結予定日の2か月前まで
- ※ただし、次の場合は土地取引等の届出は不要です。
- ・契約の相手方が、国又は地方公共団体である場合
 - ・相続により土地を取得する場合 など

2 開発行為に係る届出

- (1) 届出の対象：土石の採取、地下水等の採取、建物や工作物の設置等
 - (2) 届出義務者：開発行為を行おうとする者
 - (3) 届出の時期：開発行為の着手予定日の2か月前まで
- ※ただし、次の場合は開発行為の届出は不要です。
- ・森林法の林地開発許可が必要な場合
 - ・農業、林業、漁業を営むために行う場合
 - ・自己の居住の用に供する住宅の建築等を行う場合 など

◆水資源の保全に向けて

水資源は、山形県の豊かな自然環境に支えられ、私たち県民の日常生活や経済活動に欠くことのできないものです。

※県は届出者に対して必要に応じて報告又は資料の提出を求めたり立入調査を行うことがあります。また、届出を出さなかったり虚偽の届出をした場合や正当な理由なく県の指導に従わない場合、勧告・命令、氏名等の公表、5万円以下の過料を科すことがあります。

この水資源を守るために、県では、平成二十五年九月に「山形県水資源総合計画」を定め、行政だけでなく、県民の皆さんとともに美しい川の保全を進めています。

油や食べ物の残りなどを排水口に流さないといったご家庭でできることや各地域で行われている森づくり活動への参加など、県民一人ひとりの取組みが大切です。

〔県環境企画課〕

(問い合わせ先)
山形県環境企画課企画調整担当
☎023-16300-3161



環境省選定「名水百選」の一つ「月山山麓湧水群」(西川町)

村山管内の木造公共施設の整備について

◆はじめに

公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律（平成二十二年法律第三十六号）の施行以降、全国的に公共建築物の木造化・木質化が進んでいます。

平成二十七年、当管内に地域材をふんだんに活用した四つの木造公共施設が整備されましたので、御紹介します。

◆山形市の取組み

山形市では、市コミュニティセンター整備基本方針に基づき、コミュニティセンターの建替えを実施しています。市有林を伐採して得た丸太を山形市木材業組合で製材し、利用することで、市産材の良さを広く市民にPRしています。

本沢コミュニティセンターの概要

躯体のみならず、ホールのベンチなどにも市産材を使用し、利用者が直接木に触れて、木の良さを直に感じるができるつくりとなっています。

全体事業費（林野庁補助）

二六五、五八〇千円

（九九〇、〇〇千円）

構造：木造平屋

延べ床面積：七七二㎡

地域材使用量：一六五㎡（スギ、カラマツ）



市産材を活用したホールベンチ

◆天童市の取組み

天童市では、東日本大震災の発生後、市有施設の耐震化を積極的に進めています。その際、県産スギ材を集材材に加工し、構造材に使用しているほか、地元の家具製造会社からスギ材でつくった家具を図書・談話室に設置するなど、木の温もりがふれる施設になっています。

また、太陽光発電・蓄電設備の導入やペレットストーブを設置するなど、環境への配慮や災害時の避難所としての機能の充実も図られました。

高楯公民館の概要

木材の製材や加工、組立てなどを、できるだけ県内の業者に依頼し、モダンなデザインが特徴になっています。

全体事業費

（林野庁補助）

五〇三、五三〇千円

（二二三、九五〇千円）

構造：木造平屋

延べ床面積：一、〇〇〇㎡

地域材使用量：二一八㎡（スギ、クリ）

成生公民館の概要



図書・談話室

市内でも歴史が古い成生地区にふさわしく、蔵をイメージした伝統的な和風のデザインが特徴になっています。

全体工事費（林野庁補助）

三五四、六一〇千円

（一〇三、七四〇千円）

構造：木造平屋

延べ床面積：八一七㎡

地域材使用量：一八〇㎡（スギ）

蔵増公民館の概要



ホール

内装にもスギ材を多く使用し、地域を流れる最上川の舟と地名の蔵をイメージしたデザインが特徴になっています。

全体事業費（林野庁補助）

三四〇、一七〇千円

（一〇六、五六〇千円）

構造：木造平屋

延べ床面積：八一七㎡

地域材使用量：二一八㎡（スギ、カラマツ）

◆おわりに

今後、管内市町の設計担当部局と連携し、木材調達等の具体的な情報を提供しながら、公共施設の木造化、内装木質化を進めてまいります。

〔村山総合支庁森林整備課〕

森林整備加速化・林業再生事業を活用した 県産木材利用促進の取組み (株)天童木工

◆はじめに

広葉樹を材料とした成形合板家具で、国内外に多くの愛好家を持つ(株)天童木工は、地域材の有効利用を図るため、山形県森林整備加速化・林業再生事業を活用して、圧密単板加工機等を導入し、新たな技術開発によるスギやヒノキをはじめとする針葉樹の圧密加工家具の製造に取組んでいるので御紹介します。

◆圧密単板加工機・スライサー等の導入

(株)天童木工では、針葉樹の需要拡大や地域材の活用を促進するため、生産体制の強化が必要となり、このたび自社で新たに確立した圧密加工技術の二段階ローラーによる圧密単板加工機三台、スライサー一台、チップポイラー一台、チップパー一台を導入しました。総事業費は、二億五千三百万円(うち補助金二分の一)となりました。

これにより、スギやヒノキをはじめとする針葉樹を材料とした家具の受注に対して、的確な対応ができる



とともに、新たに展開する難燃・防腐機能を付加した内外装材等の建材についても、安定した生産が可能となります。

昨年度、(株)天童木工のこの技術が高く評価され、軟質針葉樹の圧密成形加工技術開発・実用化及び家具用材への利用拡大で、第六回ものづくり日本大賞内閣総理大臣賞受賞の栄誉に輝きました。

◆おわりに

県としましては、これらの家具・内装材を活用する公共・民間の木造建築物の整備促進について、積極的に取組んでいくとともに、県産材の新たな需要の創出と多様なニーズに応える取組みについて、支援を継続してまいります。

〔村山総合支庁森林整備課〕

「大江町山菜フェア・町内フォーラム」開催

◆はじめに

大江町では、昨年行われた「全国山菜サミット」大江」を契機として、「大江町山菜等活用推進コンソーシアム」を立上げ、山菜の生産・加工・販売の強化に取組んできました。今年六月二十七日に「大江町山菜フェア・町内フォーラム」を企画し、大江町産山菜を利用した料理の試食会と、東京の中華料理店「酒家華福寿」オーナーシェフ久保木武行氏、大手物販会社で大江町出身の「カインズ商配(株)」代表取締役大瀧學氏を講師に迎えた山菜フォーラムを開催しました。

◆試食会

試食会では、久保木シェフ指導のもと、町産の新鮮なミズ、ウルイ、ワラビ、笹筍等を食材とした三品の料理を提供しました。

昨年度オープンした「やまさあーべ」(旧七軒西小学校)会場には総勢九十二名が参加し、いどり豊かな山菜料理を試食しました。

参加者からは、山椒を使った中華風の味付けが新奇でおいしい、家でも作ってみたいなど、多数の御意見をいただきました。

◆山菜フォーラム

久保木シェフからは「山菜の可能性」「ブランド化の課題」等について、大瀧社長からは「つながることの重要性」、「ネットを活用した販売方法」について講演をいただきました。

コンソーシアムでは今回の山菜フェアの結果を活かし、生産量増・販路拡大、レシピ開発、そしてレストラン開業に向け、これからも活動を進めていく予定です。

◆おわりに

村山総合支庁では、山菜栽培技術や流通等の各種研修開催、山菜PR活動への積極的な協力により、管内の豊富な山菜資源の生産・消費拡大を図っていきたいと思います。



〔村山総合支庁森林整備課〕

舟形町 鮎中間育成施設の内装木質化

舟形町には、一級河川「最上小国川」が流れています。上流の最上町にはブナの原生林があり、生物多様性に富み、鮎、サクラマスが生息しています。鮎の産地として有名であり、七月一日の友釣り解禁日には、県内外から多くの太公望が鮎を求め集まります。

鮎の釣人は全国から年間三万人が訪れ、五回の釣り大会が開催されます。中でも松原鮎は、かつて明治天皇に献上され、姿形、味、香りが良いことで知られています。

町では、内水面漁業の振興策として、良質な鮎を確保するために、平成十年度に舟形町鮎中間育成施設を建設し、年間五十八万尾飼育、三千kgを生産目標としました。稚魚から幼魚になるまでの間施設で育て、五月下旬に放流します。また、鮎を観光資源としても位置付け、町・漁協・観光協会が連携しながら、舟形小学校の児童たちによる放流や、舟形中学校の生徒及び一般参加者による鮎釣り教室などを実施しています。その一環として、管理棟では、鮎中間育成施設の来館者に対し、漁協の活動を紹介する取組みを計画しま

した。しかし、管理棟は手狭で、築十六年経過し老朽化が目立つため、山形県森林整備加速化・林業再生事業により、最上地域杉材を活用して内装木質化と増築を実施しました。改築部分は、主に腰壁を杉板張りにし、木製中木、合板フロアー張りとなりました。施設内には、漁業及び子供たちによる鮎の放流に関する資料や漁具などを展示しており、来館者に木の良さや最上小国川の魅力を感じてほしいと考えております。

今後も、施設の適切な管理に努め、展示資料等の充実を図り、訪れる小学生及び地域住民、釣り人等に対し、森と川のつながりを感じてもらえるような運営を目指します。

〔舟形町産業振興課〕



木質化実施状況（展示室）

やまがた森林ノミクス

「太陽光発電木製架台開発完了・製品化へ」

山形県では、豊かな森林資源を「森のエネルギー」「森の恵み」として活かしていく「森林（モリ）ノミクス」を宣言し、林業の振興を図りながら雇用を創出し、地域活性化に向けて取組みを進めております。

近年、再生可能エネルギーの活用として、太陽光発電施設の建設が県内各地で増えており、最上総合支庁では、県産木材の新たな需要先として、太陽光発電パネル設置用架台を開発できないかと発想し、関係者とともに開発に取組みました。従来の施工方法に一步踏み込み、設置材にもエコロジーを考慮し、日本の伝統である木造とクリーンエネルギーの太陽光発電を融合させた方法とも言えます。また、鋼材と異なり沿岸での利用も期待できる素材です。川上から川下まで一体になって取組む森林循環型システムの確立により、耕作放棄地の解消とともに森林資源の有効活用が目標です。

開発は山形県工業技術センター及び秋田県立大学木材高度加工研究所の試験協力を得て「侘たぐみまさの」が行いました。構造計算および解析

では三回目の挑戦で形がまとまり、強度試験でも構造計算とほぼ同等の結果も得られ、雪国仕様の木製架台が開発・完成に至りました。なお、協力研究機関から指摘のあった桁材と垂木の寸法の見直しの検討及びフィールド実験で確認されたボルト・ナットのゆるみについては、コーチスクリューボルト等への変更により、更に信頼性の高い架台が完成するものと考えております。

今後は、コスト面や点検マニュアルの検討と併せて、完成品の宣伝活動を展開する予定です。



完成した太陽光発電木製架台

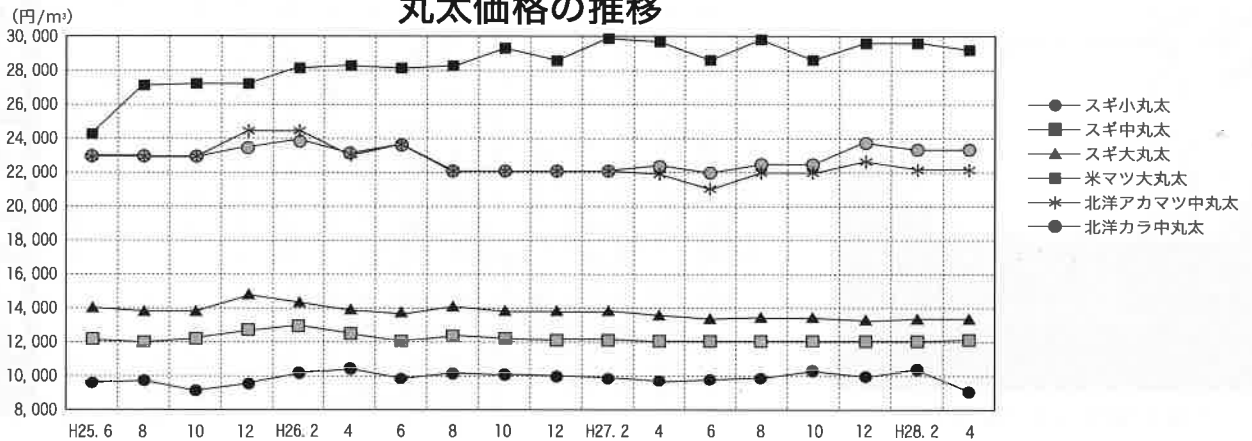
〔最上総合支庁森林整備課〕

土砂災害を防止・軽減するには「治山施設」が必要です 森林を整備・利活用するには「林道施設」が必要です

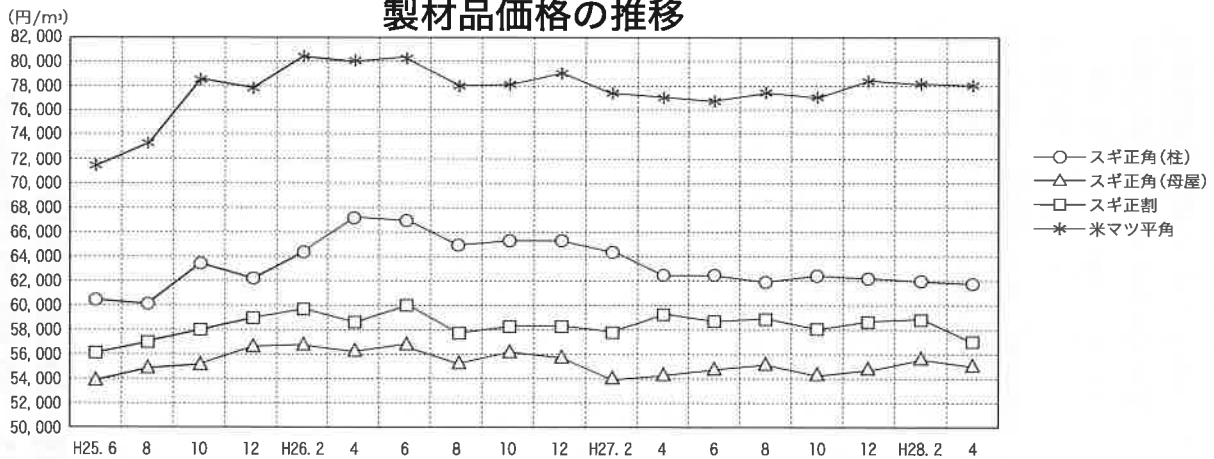
会長 東南村山支部長 堀川 隆志 羽陽建設(株) 理事 西村山支部長 後藤吉比己 後藤建設(株)
副会長 新 庄支部長 永井 敏行 永井建設(株) 理事 庄 内支部長 五十嵐久廣 鶴岡建設(株)
副会長 北 村 山支部長 小野 勉 小野建設(株) 監事 東南村山支部 荒井 孝直 (株)山形組
理事 置 賜支部長 那須 正 那須建設(株) 監事 西村 山支部 佐藤 欣司 大東建設(株)

山形県森林土木建設業協会 ◇事務所:山形市あさひ町16-21
TEL(023)632-3893 FAX(023)632-5454 E-mail:info@y-sinrin.jp

丸太価格の推移



製材品価格の推移



平成二十八年七月一日発行(隔月発行)
編集・発行 山形市松栄一丁目五番四一号 山形県森林協会

監修

印刷所 山形県農林水産部 渡辺印刷

定価 二八八円

緑の宝、暮らしに活かそう大事な資源

公益財団法人 山形県林業公社 理事長 細野 武司

〒990-2363 山形市大字長谷堂字馬場2265番
TEL 023-666-6348 FAX 023-689-9348 E-mail: y-ringyo@atlas.plala.or.jp
ホームページ: <http://business3.plala.or.jp/y-rkousy/>